



昭和37年(1962)に解体撤去された台所棟玄関の外観写真
[横浜市所蔵]

当時は、建物手前に「明治憲法草創記念之碑」が置かれていた

玄関部分を北東より見る

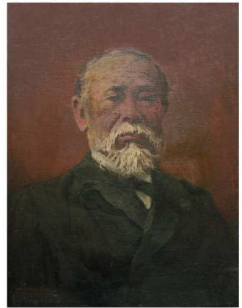
絵葉書
乙舳の帰帆
伊藤公の別邸
横須賀鎮守府第三号ノ三
大正十四年(1925)二月二十五日検閲済
東京港要塞司令部地41第十七号
[楠山永雄氏所蔵]



客間棟・居間棟を南東より見る



伊藤博文公肖像画
青山熊治画伯作
(明治42年(1909))
政治活動で多忙を極めた公の肖像画は珍しく、最晩年のものとしても貴重なもの
[伊藤博昭氏所蔵]



明治期の茅葺屋根海浜別邸建築

旧伊藤博文金沢別邸は、初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文公により、明治31年(1898)に建てられた茅葺寄棟屋根の田舎風海浜別邸建築です。

明治期、富岡などの金沢近傍は東京近郊の海浜別荘地として注目され、松方正義や井上馨などが別邸を設けました。その後大磯・葉山など湘南地方が別荘地として栄え、金沢はその役割を終えました。金沢別邸は、当時の別荘地の数少ない貴重な建築遺構です。

平成18年(2006)11月横浜市指定有形文化財に指定されました。建物の老朽化が著しかったことから、平成19年(2007)解体工事・調査を行い、現存しない部分を含め創建時の姿に復元することになりました。平成20年(2008)6月より工事着手、平成21年(2009)10月に庭園と併せて竣工しました。本施設は内外共自由に見学いただけます。

伊藤博文公について

伊藤博文公は天保12年(1841)周防国(山口県)にて百姓の林十蔵・琴子夫妻の長男として生まれ、幼名を利助といいました。利助が12歳の時、父十蔵が萩藩の中間伊藤直右衛門の養子となり以降伊藤姓を名乗るようになります。

安政4年(1857)に松下車塾に入り吉田松陰に学び、桂小五郎や高杉晋作、井上馨や山縣有朋らと倒幕運動に奔走します。

維新後は、政府の近代化政策の中心的役割を担い、明治18年(1885)弱冠44歳で初代内閣総理大臣に就任しました。4度の内閣組閣と枢密院議長、初代韓国統監を経て、明治40年(1907)公爵を授与されています。

明治42年(1909)10月26日、中国黒龍江省のハルピン駅で68歳の生涯を閉じました。